

2021（令和3）年度 学校経営計画

1 めざす学校像

教育目標

憲法及び教育基本法に則り、学園がこれまで築き上げてきた「人間尊重」の歴史に学び、現代社会を強く生き抜く人間を育てる為、教育目標を次のように定める。

- 1) 民主的な社会の形成者として必要な基礎学力を培う。
- 2) 仲間とのふれあいの中から、明るく豊かな心と創造性を養い、主体性と個性豊かな人間を育てる。
- 3) 生きる強さと人間的優しさを備えた心身共に健康な人間を育てる。
- 4) 他国の人々の文化や生き方に学び、広い視野に立って地球環境と平和を守るために世界の人々と協力できる人間を育てる。

2 教育目標を実現するために(中期的目標)

1 経営基盤の確立

持続的・継続的に安定した学校運営ができるために、健全な財務状況の確立を目指す。

- a) 教職員の採用・人事配置・定数管理・人件費率等、適正に管理する。
- b) 補修工事や新規工事については年度計画に従って行うなど、適正に予算を執行する。
- c) 電力削減やペーパーレス化など、経費意識を持って、SDGsの取り組みに照らし合わせながら、環境にも優しい学校を目指す。
- d) 持続可能を前提として、「働き方改革」に沿って教職員が安全・快適に勤務できるようにより良い労働条件を迫る。

2 教育内容の充実

「行きたい」「行かせたい」と言われる、地域に信頼され誇りとされる学校を目指すために、教育内容を充実させる。

① 基本的な教育内容の徹底及び教職員の資質向上

- a) 将来の自立に向け、基本的な生活習慣の確立、マナー意識、規範意識を育む。また、誰にでも挨拶ができ、男女や年齢に関係なくコミュニケーションがとれる生徒を育成する。
- b) 新学習指導要領に基づく新カリキュラムについて、各教科・教務が中心となり、教学内容のさらなる充実を図るための検討を行う。
- c) 中堅進学校として大学進学実績の向上をめざす。4年制大学への進学率を75%以上に。国公立大学や難関私立大学、中堅私立大学、さらには志望の多い看護・医療系、薬学部への合格実績をあげる。そのために、目標達成に向けて努力する態度を養い、志望校合格に向け最後まで挑戦する姿勢・意欲を生み出しサポートする。昨年度導入された大学共通テストについて情報を収集し、生徒に適切な指導ができるよう分析をする。
- d) 大学進学実績向上のためにも、英検やTOEIC、NEWS時事能力検定といった検定に積極的に取り組み、実力テストの事前・事後指導と分析をしっかりと行う。
- e) 教員の受験指導のスキルアップを図る。また、生徒による授業評価アンケートを継続実施し、日々の研鑽につなげる。
- f) 文化行事や講演会を企画し、情操教育の充実を図る。
- g) 租税教室や税の作文コンクールへの参加を通して、税と社会基盤整備の重要性について学ばせる。
- h) プログラミング教育について、研修に参加した教員を中心に授業計画を策定し、教員の研修をスタートさせる。
- i) 外部の研究発表大会やコンクールなどに生徒が積極的に参加できるように啓発し、教員がしっかりとサポートしていく環境づくりを目指す。

② ICT化の推進

- a) 生徒の活動をポートフォリオ化するために、ICT機器を用いてデータを蓄積する。
- b) 教員用小型モバイルと生徒用学習モバイルの活用について、プロジェクトチームのメンバーを中心に各教科で授業内容について検討を進める。
- c) インターネットを介した各家庭との連絡ツールを利用し、保護者との連携を密にする。
- d) オンライン英会話を活用し、中学校は全学年全クラスでの実施を継続し、高校は実施する機会を増やす。

③ 国際化の推進

- a) 中学・高校を問わず、海外の学校との交流を図りたいが、コロナ禍の終息までの実施は厳しいと思われる。オンラインによる交流などの代替プログラムを策定し、たくさんの生徒が交流に関われるようにする。終息後は、本校の生徒を積極的に海外へ送り出し、海外での生活を経験させる。
- b) コロナ禍終息がなければ、高校の海外修学旅行は実施が困難だと思われるが、今後に向けて安全かつ有意義なものとなるように準備する。
- c) コロナ禍終息後に向けて、希望者向けの海外研修の準備をする。また、代替となる国内・校内での研修の設定を検討する。
- d) 台湾やマレーシアなどの海外大学進学に向けての説明会を開催し、生徒・保護者の海外大学進学的重要性を認識してもらえるように努める。

④ 学校の環境整備

- a) いじめ対策として、「いじめ対策基本方針」について教員に再確認をし、生徒にはアンケート実施や中学生には通報システムを導入して早期発見に努める。
- b) 部活動の活動方針に沿って適切な部活動の実施をする。
- c) 各ホームルーム教室用PCの更新と各教室への動画配信ができるように環境整備を行う。特別棟の被服教室の移転と高校棟準備室などの有効活用を図る。
- d) グラウンドやテニスコートについて、人工芝化などの環境整備を検討する。
- e) 自転車置き場の屋根の設置を検討する。

⑤ 労働環境の整備

- a) 労働条件等について随時労使で検討し、職員室の整備などのハード面も含めてより良い労働環境を追求する。
- b) 会議時間の短縮など長時間労働を良しとしない職場風土作りと、年間5日以上の有給休暇取得に向けての環境整備を継続して行う。
- c) 社内連絡ツールとして使用しているシステムを利用して、出退勤時間と労働時間の管理を行う。
- d) 各種会議の回数と時間の削減を全員で心がける。

⑥ その他

- a) 同じ法人の中・高・大の連携を強化し、法人全体の活性化につなげる。
- b) 募集活動をさらに充実させる。次年度の入学生徒数の目標は中学70名高校400名。
- c) 成人年齢引き下げで、高校在学中に成人年齢に達する生徒が存在するようになる。「主権者教育」「消費者教育」「金融教育」の実施を検討する。
- d) 創立100周年に向け、ビジョンの策定及び周年記念事業の準備を始動する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [2022年1月実施分]	学校協議会からの意見 (実施：2022年2月)

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 経営基盤の確立	人事の活性化と教員の定数管理・労使の連携・適性な予算執行	① 専任教員の年齢バランス、常勤・非常勤講師の数的バランスを考慮し、採用計画を立てる。 ② より魅力ある学校作りに向けて人事配当を行う。 ③ 労使双方より代表を出し合い、労働条件についての協議を行う。 ④ 施設工事等、計画的に予算執行を行う。 ⑤ 教学に必要な経費を見直し、節減を推進する。	① 年齢バランスが取れるような人事採用ができたか。 ② バランスのとれた人事配置により、教職員が活性化するか。 ③ 人件費率が60%以内に収まるか。 ④ 計画通り予算執行できたか。 ⑤ 紙の節約を中心として、節減の為の啓発をし、経費の削減をすることができたか。	① ② ③ ④ ⑤
2 教育内容全般の充実	より魅力ある学校を目指し、教育内容全般の見直しと実現にむけての準備	① 来年度入学生からの新カリキュラムについて、各教科の教学内容を検討し決定する。 ② 英検を中心に資格取得を奨励し、学習リズムの定着とグローバル化に適応できる英語力を養う。 ③ 大学入試改革後の入試制度や問題の研究と対策を行い、受験指導力の向上を図り、大学進学率と志望大学への合格数を増やす。 ④ 「プログラミング教育」や「金融教育」等、新しい教育内容に対応できる教員の養成を行う。 ⑤ 生徒に夢や目標を持てるように、進路学習・キャリア教育の充実を図り、目標の実現に向けて生徒達の自己肯定感を高める取り組みを行う。 ⑥ 授業内容については、各教科で協議と研究を重ね、常に教科指導力の向上に努める。 ⑦ 授業アンケートを実施して、自己評価と生徒からの評価を照らし合わせ、教員の指導力向上を図る。 ⑧ クラブの入部率を上げて、生徒が勉強との両立をしながら充実した活動ができる環境整備を行う。 ⑨ 教学環境について、生徒の改善要求が多い点について検証し、可能な点を修正し、充実度を上げる。	① 10月までに新カリキュラムの教学内容が決定されているか ② 中学生は卒業までに全員英検3級以上合格、高校生は卒業までに半数が準2級合格をするか。 ③ 公募制と一般入試受験の生徒を増やし、大学進学率を75%以上にし、国公立大学20名以上、関関同立50名以上の合格者を出せるか。 ④ 新しい教育の教材やテキストの準備、授業が確立できるか。 ⑤ 進路学習・キャリア教育の充実が図れたか。 ⑥ 各教科で、毎学期1回以上の研究授業を行い、教科指導についての研鑽ができたか。 ⑦ 授業アンケートの実施とそれに基づく校長面接を全教員対象に行う。 ⑧ 昨年度よりクラブ活動への加入率を上げて、クラブ活動の充実を図れたか。 ⑨ 生徒への学校生活についてのアンケートを実施し、その結果を検証し修正が必要な点について改善することができたか。	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
3 ICTの推進	教室・校舎内の環境整備と情報機器の選定、モラルとマナー指導の徹底	① 全教室WiFi化が完了し、中学生は全員、高校は1年生から一人一台のPCを使用できる環境となったので、PCの最適な活用法を研究し、生徒に効果的に使用させる。 ② 次年度中学入学生から生徒用モバイルについて、一人一台の個人購入に切り替える為の購入機種を決定し、導入方法を決定する。 ③ モバイルを持っていない高校2・3年生には、教科指導などで必要な場合には個人の携帯電話を使用できる設定を行い、活用させる。	① 中学生、高校1年生に効果的にPCを活用させることができたか。 ② 中学校の来年度の新入生に購入してもらうモバイルと導入方法の決定ができるか。 ③ 教科指導などで使用する携帯電話に関して、使用のルールを策定し、スムーズにかつ有効に使用することができたか。	① ② ③
4 国際化の取り組み	すべての生徒が海外の生徒と触れ合う機会の確保と異文化への理解を深める取り組み	① コロナ禍により、中学・高校共に海外の生徒との直接的な交流ができない状況であるので、代替となるオンライン交流会や校内での外国人講師による代替プログラム案を策定し実施する。 ② 今年度高校入学生の来年度実施予定の修学旅行について、海外方面での実施が可能かどうかを検討し、可能であれば安全かつ有意義に催行する。 ③ 台湾とマレーシアの大学への進学を推奨し、希望者への情報提供とアドバイス・進学指導を実施し、実現させる。	① 中学・高校共に、オンライン交流や校内での外国人講師による代替プログラムが実施できるか。 ② 今年度高校入学生の来年度修学旅行の方面を海外にすることが可能か。 ③ 海外大学への進学者が10名以上になるか。	① ② ③
5 労働環境の整備	働き方改革に沿って、より良い環境整備	① 年間5日以上の有給休暇取得に向け、労使で話し合い、全員必ず取得できるよう整備する。 ② 管理職は、長時間労働を良しとしない職場風土作りと時間管理を行う。 ③ 会議の精選と、時間を区切った会議を全員が心がける。 ④ 職員室の環境整備を行う。	① 教職員全員が5日以上の有給休暇を取得でき、有給休暇消化率を上げられるか。 ② 長時間労働の教職員に対し、管理職が実態を把握し、労働量が適切であるかのチェックをし、声掛けができるか。 ③ 会議時間を10%短縮できるか。 ④ 職員室の配置変更や整備ができたか。	① ② ③
6 その他		① 同一法人内での中・高・大の連携をさらに進める。 ② 生徒募集活動を充実させ、目標入学生徒数を獲得する。 ③ 法人本部と連携して、災害時用品の備蓄をする。 ④ 学園の創立100周年に向けての準備を始める。 ⑤ 学園としてSDGsに照らした取り組みを選定し、生徒への周知と取り組みの強化を図る。	① 現在実施されている連携に加えて新しい連携事業をスタートできるか。 ② 中学70名、高校400名の新入学生を獲得できるか。 ③ 数日分の水・食糧・シートを備蓄できるか。 ④ 「100周年準備委員会」の本格的な活動ができるか。 ⑤ SDGsについて、生徒への周知と学園としての取り組みの強化が図れたか。	① ② ③ ④ ⑤